

みやした こ ぶん
宮下古墳 ■ B・5



この古墳は、前方部を南西に向けて築かれた前方後円墳で、北山古墳群の中心的なものです。前方部の発達した後期古墳の形をよくとどめ、この近くには5基の円墳が付き従うように築かれています。

1899(明治32)年、後円部の横穴式石室が発掘調査され、直刀・管玉・馬具・土師器などが出土しています。これらの遺物から、この古墳は6世紀後半ころに築かれたものと思われる。

[昭和37年3月20日 市指定]

らいでんやま こ ぶん
雷電山古墳 ■ B・5



この古墳は、前方部を南に向けて築かれた前方後円墳で、北山古墳群の一つです。古墳の上に河原石が葺かれ、後円部の頂には雷神を祀った祠が安置されています。

明治時代の半ばころに、発掘調査が行われましたが、出土した遺物については不明です。この古墳は、埋葬施設である横穴式石室の特徴から、6世紀半ばころに築かれたものと思われる。

[昭和52年12月12日 市指定]

ごんげんやま こ ぶん
権現山古墳 ■ B・5



この古墳は、前方部を南西に向けて築かれた前方後円墳で、北山古墳群の中で最も大きく、古くは塚穴と呼ばれていました。

1986(昭和61)年、後円部の横穴式石室が発掘調査され、割石で築かれた長大な埋葬施設であることが明らかにされました。宇都宮市内では最も古い横穴式石室の一つといわれています。この古墳は、横穴式石室の特徴や出土した円筒埴輪・馬形埴輪によって、6世紀半ばころに築かれたものと思われる。

[昭和52年12月12日 市指定]

かわらづか こ ぶん
瓦塚古墳 ■ C・4



この古墳は、前方部を南西に向けた前方後円墳で、周囲を見おろすような丘陵の上に築かれています。付近にはかつて40基をこえる円墳が存在し、宇都宮市内では最も大きい古墳群を形成しています。

1898(明治31)年に発掘調査が行われ、埋葬施設の横穴式石室から、武器・馬具・装身具等が出土しています。また、古墳の裾部あたりからは、円筒埴輪や人物・馬などをかたどった形象埴輪が出土しています。これらの遺物によって、この古墳は、6世紀後半ころに築かれたものと思われる。

[平成7年3月22日 市指定]

ほりごめ でんがくまい
堀米の田楽舞 【二荒山神社】 ■ C・4



田楽舞とは、平安時代の終わりころに、豊作を祈るための舞としておこったと伝えられています。

堀米の田楽舞は、江戸時代の終わりまで、二荒山神社の神領地であった堀米地区(現・関堀町)の農家6軒によって、代々伝えられ、県内で田楽舞を今日まで伝えているのは、この堀米地区だけです。

この舞は、笛・鉦・太鼓・鼈(竹の先を割って束ねたもの)に合わせて唄い踊るもので、二荒山神社の春渡祭(1月15日)・田舞祭(5月15日)・冬渡祭(12月15日)に奉納されています。

[昭和53年9月29日 市指定]

かわら や かぐら
瓦谷の神楽 【平野神社】 ■ B・5



神楽とは、神聖な場所に神座を設けて神々をむかえ、その前で踊る舞踊であり、清めや豊作祈願などの意味が込められています。瓦谷の神楽は、江戸時代に京都から伝わったといわれ、現在、3が日を除く1月の第一日曜日に平野神社へ奉納が行われます。

舞は大和流で、国定め・天狗・二神・四季・八幡・稲荷・岩戸二神・鬼女・大蛇・恵比寿など17種目が伝えられています。

[昭和44年2月13日 市指定]